

唇と鼻を真っ赤に染めた白塗り顔に、金髪かつらという奇抜な容姿。横浜市中区の西橋みぎわさん(42)は、芸歴19年の末にたどり着いた「女道化師」として生きる覚悟

を決めた。日本では数少ない存在。「道化師のパフォーマンスで、横浜の人たちに、いい夢をみてもらいたい」と意気込んでい  
(武藤 龍大)

## 女道化師に生きる

横浜の  
西橋さん

# 見つけた「私の宝塚」

アコーディオンでメロディを奏でながら、オペラ風の歌声で観客を魅了する。そうかと思えば、丸顔を小刻みに振って軽快なステップで笑いを誘う。「こう見えても、宝塚歌劇団の影響で芸に目覚めたのよ」。西橋さんは照れた。

大阪で育った小学生のころに初めて劇場で見た宝塚公演。美しい衣装や華麗な舞いに目がくぎ付けになった。「夢のような世界。私も人前で芸がしたい」。そのころからピアノやバレエ、演劇などに挑戦し、大学卒業後も劇団でパントマイムの活動に打ち込んできた。

転機は八年前。乗り込んだヨーロッパ最大の演劇祭「エディンバラ・フリンジ祭(スコットランド)の舞台で、ほかの出演者の三味線演奏や歌



自宅で鏡を前に練習する西橋さん  
—横浜市中区元町1丁目

## 不惑の覚悟夢を表現

唱、演技に圧倒された。自らのパントマイムの限界を感じ「枠にとらわれずに、好きなことをやろう」と誓ったという。

経験を生かそうと、音楽を取り入れたパフォーマンスを

模索中、フランス人道化師が群馬県で開催したワークショップに出合った。そこで「夢の世界を表現する私なりの宝塚」を、ついに見つけた。

不惑を目前にした三年前、道化師になった。同時に、あ

こがれていた横浜・元町に転居。以来、横浜人形の家や東京都美術館などでソロ公演を果たしたが、まだまだ知名度は低い。

生活費を稼ぐため、都内を中心にデパートのイベントや祭りに出演する日々。「横浜の地元の人に、もっと見てもらえたらうれしい」と、活躍の場を探している。

電子メールアドレスはdiv.amigiwa@gmail.com

amigiwa@gmail.com